

<p>教育学・心理学</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 教養教育 □ 高大接続改革</p>
<p>keyword</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 教養教育 ■ 高大接続改革 ■ リメディアル教育 ■ ライティング教育 ■ 論理的思考力 ■ SGH・SPH・SSH 	<p>【1】論理的思考力の育成を目的とした高等学校の授業支援</p> <p>著者は高等学校が抱える教育課題への支援を担当している。近年、センター試験を中心に、我が国は入試制度の改革期を迎えている。従来型の国数英理社の筆記試験にとどまらず、学生の思考力や主体性を評価することを目的にして、「小論文」「グループディスカッション(集団討論)」「課題学習のプレゼンテーション」といった新たな選抜方法も注目されている。これらは高等学校における教科指導の枠を横断しているため、カリキュラムや指導法の蓄積が不十分である。その点について、大学で先行して実施している論理的思考力、ライティング能力、ファシリテーション能力の育成を目的とした授業経験をもとに、高等学校の課題解決に取り組むことができる。</p>
	<p>【2】大学の教育力を測る指標開発と高校生の進路指導</p> <p>著者は「偏差値」以外の指標に着目した、高校生のための進路指導を実施している。</p> <p>大学の教育力は、「大綱化後の教養教育改革にどのように取り組んできたか」を見れば、おのずと浮かび上がってくる。入試形態の多様化、言い換えれば、「一般入試(センター試験を含む)」を経て入学してくる学生比率の低下に伴い、大学はどのような学習支援策を実施してきたのかに、大学の教育力は見えてくる。</p>
<p>児玉 英明 Hideaki Kodama</p>	<p>入試形態の多様化によって、従来、担保できていた入学時の学力を担保できなくなってきたのであれば、それに応じて、どのような学習支援策を打ち出してきたのかに着目することは、大学の教育に対する姿勢を見てとるひとつの有効な手段である。しかし、入試形態や出願方法などを散々多様化させた割には、入学後の学習支援策の方には、立ち遅れがみられるというのが現状だろう。そうであるならば、従来の大学観からすれば、どこか後ろめたさを感じていた「リメディアル教育」、「初年次教育」、「キャリア教育」に関する教学改革の実績は、大学の教育力を測る指標になりうる。</p>
<p>高大接続・入試センター 特任准教授</p>	<p>【3】ライティング能力の育成を目的とした高大接続教育</p> <p>著者は、京都三大学教養教育研究・推進機構のリベラルアーツ・ゼミナール「現代社会に学ぶ問う力・書く力」の実践を通じて、アクティブ・ラーニングの経験を積んできた。リベラルアーツ・ゼミナールでは、自ら「問いを立てる」「書く」という行為に重点を置いている。また、リメディアル教育の要素を教養カリキュラムに組み込み、パソコンや図書館の使い方、レポートの書き方などを初歩からレクチャーし、学生から好評を得ている。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都三大学教養教育研究・推進機構 教育 IR センター 特任准教授を経て現職。 	<p>リベラルアーツ・ゼミナール「社会科学の学び方」においては、「映画」も活用しながらディスカッションの機会を設け、政治経済の勉強に不慣れな理系学生の問題意識を触発する工夫をしている。2015年度は、山田洋次監督と映画製作をともにしてきた専門家を招き、『母べえ』『母と暮せば』『学校』を鑑賞して、授業外でも定期的に学生と「しゃべり場」を開設するなど、「対話とフィードバック」による堅実な双方向型授業を実践してきた。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高崎経済大学附属高等学校「文部科学省 スーパーグローバルハイスクール SGH」運営指導委員 ・滋賀県立彦根東高等学校「文部科学省 スーパーサイエンスハイスクール SSH」運営指導委員 ・滋賀県立八幡商業高等学校「文部科学省 スーパープロフェッショナルハイスクール SPH」研究指導委員 ・日本リメディアル教育学会 関西支部長 ・大学コンソーシアム京都「FDフォーラム」企画検討委員会 委員長(平成 28 年度) 	<p>【4】高大連携(SGH・SPH・SSH)と大学コンソーシアム</p> <p>著者は、高校の教員と大学の教員が、高大接続、教養教育をキーワードにして、お互いの取組みを共有できる場の創設に努めてきた。群馬県では、文部科学省「スーパーグローバルハイスクール事業」採択校である高崎市立高崎経済大学附属高校において、高大接続の観点から、運営指導委員を担当している。滋賀県では滋賀県立彦根東高等学校「文部科学省 スーパーサイエンスハイスクール」運営指導委員、滋賀県立八幡商業高等学校「文部科学省 スーパープロフェッショナルハイスクール」研究指導委員を担当している。</p> <p>著者は京都府内の国公立大学、自治体が加盟する「大学コンソーシアム京都」における大学間連携のFD活動にも携わり、初年次・リメディアル教育に関する教員研修の経験も豊富である。</p>
<p>【論考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「吉野源三郎『君たちはどう生きるか』に学ぶ教養教育の原理像と思想性」『平成27年度報告書 京都三大学教養教育研究・推進機構』2016年 ・「大学の教育力を測る新しい指標の登場と教養教育の再構築—教育情報の公表に関する高等教育政策との接点において—」高崎経済大学附属産業研究所編『高大連携と能力形成』日本経済評論社、2013年 	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>高等学校の新しい『学習指導要領』も公表され、高大接続改革が本格的に始まりました。そのような政策動向のなかで、著者も滋賀県教育委員会の『『学びの変革』推進プロジェクト』に、2018年度より参画しています。特に、学習指導要領の「総合的な探究の時間」の取組について、教育委員会との連携を推進できればと考えています。</p>
<p>【連絡先】 hideaki- kodama@biwako.shiga-u.ac.jp</p>	